こども民生委員活動、始動！

本会では、大川市及び大川市民生委員児童委員協議会が実施する「こども民生委員」活動を一緒に取り組んでいます。こども民生委員の取組みは、子どもたち自身が民生委員活動、さらには地域について学び、子どもたちがやってみたいことや、地域に対して出来ること、手伝って欲しいこと等を形にするため、地域全体でバックアップし、「共に支え合う」地域共生社会の実現を目指しています。

子どもたちと地域住民の交流（多世代交流）をすることによる気づきは、一番の福祉教育となりますし、何より普段から地域の皆さんとの顔見知りの関係になることは、地域の福祉力の底上げにもつながります。

今年度は、モデル的に大川小学校5年生、川口小学校5年生の生徒に一定の講習を行い、「こども民生委員」として登録いただき、地域の皆様との交流をしたり、民生委員さんと一緒に一人暮らし高齢者宅に訪問し子どもたちが作成したメッセージカードをお渡ししました。

一人一人が出来ることを、出来る範囲で支え合っていくことで、地域住民のふくし～ふだんの・くらしの・しあわせ～を構築していけたら良いなと思います。

社協職員の福祉ツイート

社会的孤立は何が問題なのか？

皆さんは、「社会的孤立」と聞いて、どのようなイメージをお持ちでしょうか。一人暮らしの高齢者？身寄りのない方？「社会的孤立」状態をどのように測定するのかですが、次の4点から測定することが多いとされています。①会話頻度が2週間に1回以下②頼れる人がいない③頼られる事がない④社会活動に参加していない、となっています。

少子高齢化や核家族化が進行し、今までの血縁・地縁・社縁といった社会構造が脆弱化していることから、社会的孤立状態の方が増加しています。

では、なぜ社会的孤立が問題なのでしょうか。その一つとして家族機能の低下が挙げられます。これまで人生の最終段階で「日常生活支援」「身元保証」「死後対応」などの支援を必要としたとき、主に同居の家族が対応してきました。しかし、身寄りのない方は、支援をする家族がいません。これまで家族が提供してきた支援をどのように確保するのかが今後の社会全体の課題となります。

また、社会的孤立状態にある方は、非孤立者に比べ、生きる意欲や自己肯定感が低い方の比率が高いということも挙げられます。

人は、他者との関り合いの中から自身の存在価値を見出します。孤立状態であれば、自己認知不全状態となり、自分が困っている状態なのかも分からず、SOSが出せない、あるいは、どうせ相談しても何も変わらないと思い、専門機関につながらないということが起こります。

社会的孤立は、人間関係の貧困状態だと認識することも出来ます。このような状況に陥ることは、果たして自己責任なのでしょうか？社会的孤立状態に置かれている方の背景には、様々なことが影響している場合がほとんどです。また、社会的孤立と経済的貧困は密接に影響しています。基本的に、現在の公的サービスは本人の申請によって、サービスが提供される形になっており、様々な制度・サービスがあっても、それを知らなければ、無いに等しいと言われます。人とのつながりがなければそれらを教えてくれる人もいません。

今まで家族が支援していたことも、家族機能の低下により、今後ますます地域とのつながり、支え合い活動が求められてくるのではないかと思います。困っている人を自己責任だと切り捨てるのではなく、そうならざるを得なかった背景を理解しようとする人が周囲にいれば、その人の人生も変わるかもしれません。

（ペンネームY）